

## 令和4年度 第3回学校運営協議会・学校関係者評価委員会報告

- 1 日時 令和5年2月2日(木) 午後2時から4時まで
- 2 場所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校(松崎高等学校会議室)
- 3 内容
  - (1) 授業見学 「体育」
  - (2) 協議
    - ・授業を参観しての感想・意見
    - ・生徒の進路状況について
    - ・学校自己評価の結果報告・意見
    - ・次年度に向けた改善等について
    - ・学校経営についての意見交換
    - ・その他連絡等
- 4 参加者 令和4年度学校運営協議会委員5人 副校長 部主事
- 5 委員からの質問、意見、提案など
  - ①進路状況等について
    - ・地域に資源が限られているため、一度家を出て訓練をしてから就職を考える生徒も多い。職場実習での経験から数学の授業を頑張りたいと、実習の体験と学校の学習がつながる生徒がいた。
  - ②分校だよりについて
    - ・今年度は、毎月発行。学校を知ってもらうために、各関係機関に配布。
  - ③授業参観
    - ・運動場にて、6校時体育「マラソン大会に向けて」の様子を参観。
  - ④学校自己評価等について  
〈職員学校評価について〉
    - ・地域の交流について、職場実習先は生徒の希望とマッチング。桜葉、桑葉、桜田地区、棚田、旧山田邸など、お世話になりながら、貢献もしたい。活動で、どのような力を付けていくかが重要。
    - ・実習先への生徒情報は、事前打合せ時に提供。生徒の様子を伝えることで、効果的な実習や事故防止になる。保護者も実習先に出向き伝える。
    - ・職場実習の協力会社の募集ができれば(職種の偏りをなくすためにも)良いのではないか。
    - ・子どもが少ないので、田植えや稲刈りなど地区の行事に分校の生徒が参加することは、地区にとってもにぎやかで良い。
    - ・雲見の台風被害で、中高生にボランティアを要請した。募金活動では、松崎高校と伊豆松崎分校が一緒にやり、社会福祉協議会から感謝状を授与する。被災者は高齢者が多く、子ども達がボランティアにきてくれたことに感激し、元気が出た。子ども達にとっても良い経験となった。
    - ・ボッチャ大会での交流を考えている、年代を超え色々なチームを編成して。来年度1年間は、準備期間として(審判等)進めていく。
    - ・体育祭、文化祭ができて良かった。PTAでも、もっと発信や活動を広げたかった。新型コロナの制限で横のつながりが少なく、子ども達も寂しい思いをしている。先生方を信頼して全面的に任せた。
    - ・地域とのつながりは、突然できたものではない。昔からの積み重ね、コミュニ

ケーションの場がたくさんあってできたもの。共生の場面を増やし、繋がっていければよい。

- ・外部講師も、地域から来ている。教えるために勉強しなければならない。分かりやすく伝えるためには、障害の有無にかかわらずやさしく教えることが大事。

〈保護者アンケートについて〉

- ・高等部に入り大人数になり、関わりができたこととそれらに伴う悩みについて触れられていた。丁寧にやっていきたい。
- ・『お子さんの成長を感じられたこと』の項目は、生徒の成長を振り返るには、とてもいい項目。これを見て、教員も成長を喜び、意欲が高まっている。

〈生徒アンケートについて〉

- ・何のためにこの活動をやっているか、ということを生徒が分かるように対応していかないとならない。
- ・アンケートだけでなく必要な時は、なんでも生徒が話せるようにしたい。
- ・バス停の近くに新たに横断歩道を作るには、法令上の規定があるため希望通りいかないことがある。
- ・パンを購入できれば、松崎高校生と一緒に食べる等交流もできる。

⑤その他

- ・新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いている。拡大すると福祉サービスの利用ができなくなるなどの影響がある。
- ・卒業証書授与式は、感染症対策のため今年度も来賓等を制限して行う。
- ・地域の学校で、不審者が出入りした。生徒下校後、閉められるところは施錠するなど、対応している。
- ・卒業生の進路先の福祉事業所の新聞記事紹介。コロナ禍で工賃が減少する中、農福連携事業として新たな商品開発（麦ストロー、ヒンメリ）をしている。